

編集室

＊ この5月からC分野の編集特別幹事を務めさせて頂いており、一通り各種担当委員会に出席させて頂いて、業務の大枠が分かり始めたところで、本欄の執筆当番となりました。時期的には、間が抜けた感が致しますが、まずは皆様にごあいさつを申し上げます。

＊ 実は、幹事の前には2年間副主査を務めさせて頂いておりましたので、会誌編集委員の交代時期に合わせて、副主査退任あいさつも兼ねての本欄執筆を、事務局の方から打診されていたのですが、そのときは、結果的に逃げてしまったので、会誌編集委員会に参加するようになって3年目にして初めての執筆です。

＊ 元々、文章書きというものは不得手なので、さて、この誌面に何を書こうかと悩みながら、過去の本欄を改めて読み返してみると、うんちくのある立派な文章ばかりで、自分にはとてもまねができそうもない。こんなことになるのなら、先の執筆打診時に逃げずに、幹事就任あいさつで済ませておけばよかったと、自分の先読みの甘さを痛感してしまったところでした。

＊ このように、いつも、この「先読み」というものが当たるばかりでもないのが世の常ですが、研究や開発を通じて自分たちがかわる技術の展開・方向性を、個人個人が先読みしていくことは、非常に大切なことだと思います。それは、

先読みの結果には、それを行った個人の主観的な意志が少なからず反映されていると考えられるからで、この「意志」というものが、新しいものを生む、原動力の一つではないかと思うからです。エレクトロニクス分野では、かの有名な「国際半導体技術ロードマップ」が多くの方の御努力で整備されており、ややもすれば与えられた道筋を単になぞっていくだけの危険性に陥りやすいのですが、実際には、様々な意志が込められた数多くの「先読み」を携えながら、研究や開発が行われているのだと思います。

＊ それでは、“会誌編集における重要な先読み事項は？”と問われれば、“読者の皆様の反響”も当然ですが、“特集記事のタイミング”ということが挙げられます。特集記事の編集業務は、我々編集委員会の重要な業務の一つですが、そのテーマの選定は、おおむね特集号発行の1年前にさかのぼります。特集の性格付けにもよりますが、「有望な最新技術」という位置付けであるならば、特集号発行後も(しばらくは)有望技術であってくることが理想的で、その辺りの見極めが編集者としての重要な先読み事項となるのでしょう。

＊ もし、貴方が“それでは、先読みの甘い幹事に任せておいては不安ではないか”，と思われたのなら、ぜひ建設的な記事提案等をお寄せ下さい。お待ち申し上げております。

(編集特別幹事 安藤 淳)